

ニュース・レター

N03
2008年7月号

おやじ日本

日本青年会議所小田会頭と竹花会長が対談 連携を強め、iS運動を全国に発信！

おやじ日本では、iS運動のアクションプランを作成し、多くの団体に「一緒にやりましょう！」と呼びかけています。今回は、社団法人日本青年会議所会頭小田與之彦氏とおやじ日本竹花会長が、子どもたちの問題やiS運動について語り合いました。「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守る研究会」では、当時の日本青年会議所会頭が竹花会長と共に委員を務め、議論を重ねています。この対談では、子どもたちをケータイやインターネットの危機から守るために互いに手をつなぎ、運動を全国に発信していくと固い握手を交わしました。

大人が子どもに語りかける活動を…

竹花 おやじ日本は、発足して4年半になります。今年6月1日には埼玉で全国大会を行いました。地域のおやじの会に働きかけてネットワーク化を図りながら、ケータイ問題や83運動など、子どもたちを見守る運動をしています。この思いを多くの方々が受け止めてくれて、一昨年は豊橋市で、昨年は広島市でもおやじの会のネットワークでき、全国で気運が高まっているのを感じます。お父さんたちが孤立せずにみんなで手をつないでいってほしいし、おやじの会の活動を多くの方に知ってもらいたいと願っています。日本青年会議所(以下JC)のいろいろな活動の中から、特に子どもたちに関連した活動をご紹介いただけますか？

小田 JCでは幅広い活動をしていますが、特に子どもたちの健全育成を目指して、いろいろなことをしています。ここ数年来取り組んでいるのは、子どもたちの倫理道徳教育です。2005年の「愛・地球博」のときに「学（まなぶ）の夏休み」というアニメを作成しました。各地のJCが、このアニメをベースに、学校や地域で「自然を愛する心」「感謝する心」などを子どもたちへ伝える活動を行っています。30分ほどのビデオです。

竹花 それはおやじ日本でも見せてもらうことが可能でしょうか？子どもたちに語りかけるには、伝える側の大人の学びが大事だと思うんですね。伝える側がしっかりしていないといけない。子どもたちに結論ばかりおしつけてもダメで、そういうビデオを大人が見ることで、子どもに何かを語りかけることが出来るといいですね。

地域で、いろいろな団体と手をつなごう

小田 今年環境アクションプランを選定いたしました。エコバックやマイ箸を持つとか、懇親会で食べ残しをしないようにするという「OTONANOSENAKA運動」、年間600キロ、月に50キロ、自動車を自転車に換える運動の「自転車でマイナス6%」、電気を消してろうそくのもとで過ごす「月ほたる」という3つです。これらのアクションプランは環境を大切にしようという思いはもちろんですが、子どもたちを変えるには自分たちが率先して変わらなければいけない、自分たちの言っていることとしていることが違っているようではダメ

(2ページに続く)



日本青年会議所会議室で語り合う
小田会頭と竹花会長(平成20年6月8日)

6月1日 さいたま市共済会館で、全国大会開催！
大勢のご参加、熱心なディスカッション、ありがとうございました。
(4～5ページに大会報告掲載)

(1ページから続く)

じゃないかということで、そういう言動・行動で子どもたちにしっかりと自分たちの姿勢を示そうということを、全国の会員に呼びかけています。

竹花 大人が大事だと思っていることを子どもに伝えることが大切ですね。



日本青年会議所 小田会頭

小田 全国JC全体で行う運動もあるのですが、その地域、地域で独自の運動も行っています。神奈川県の綾瀬JCでは、地元の農家と協力して親子で田植えから収穫まで行い、みんなで食べる体験をしたそうです。全国的にも、キャンプなどが行われていますが、といった場で、保護者の方から「ウチの子には〇〇をさせるな!」「ウチの子だけこうしてくれ」などと言われる例が増えてきて、対応に困っているという話もあります。

竹花 綾瀬市には有力なおやじの会があります。小学校6校でおやじの会を立ち上げ、神奈川県全体のおやじの会を主導するような人たちです。昨年、地域で学級崩壊がおきたときに、その人たちが真剣に話し合い、取り組んで、解決のために力を尽くしました。地域の中で、お互いに、協力し合っていけるといいですね。



おやじ日本 竹花会長

「子どものための活動」が「親自身の育ち」へ

小田 自分の子どもが大切、一番可愛い…これは、間違いない。でも、JCの活動に関わる中で、<自分の子どもさえよければいいというのは違う><私益は良くない>というように視野が広がっていく。それが大切だらうと思います。

竹花 そうですね。自分の子どもだけでなく、他人の子どもたちも一緒に育てる。そうでないと自分の子どもも理解できない。他人の子どもたちの中にいる自分の子どもを見て、子どもの実態が分かるんですね。そこを、親としても受け入れないといけない。私たちの活動は、子どものためと言しながら、実は、切磋琢磨しながら、親が育っていくための活動をしているのだらうと思います。おやじの会には、元おやじ、おじいさんの立場の人も多い。JCが終わった人もたくさんいることだと思いますが、おやじ日本は、子育てが終わった人、PTAが終わった人、そういう社会的役割を担ってきて、もう終わった人たちの受け皿でもあります。JCの方々はお子さんが小中学生という方が多いのではないでしょうか？一番、家庭が忙しい、一番、仕事が忙しい、という時期だと思いますが、そんな中で、よく、JCの活動が出来ますね？

小田 何かを犠牲にしているのかもしれません。

竹花 まさか、子どもを犠牲にしているわけではないでしょうね？

小田 イエイエ、とんでもない！ それこそ、親の背中を見せてます。小中学生の時期は、人間としての考え方の基本を伝えるべき時期、親との関係の一番大切な時期ですね。「まちづくりより、家づくりでしょ！」と妻によく言われるのですが…

竹花 いいことをおっしゃいますね！（笑）

小田 今、おやじの会は、おじいさん世代も多いと言うお話をましたが、子育てを一度経験した世代からの教育というものはすごく大切なことではないか、三世代同居の中で得られるものは大きいのではないかと感じています。JCは、非常に忙しく社会と係わっている世代なですから、地域の中で、元おやじや元母親の方々が子どもたちと係わってくれるのはとても心強いことですね。

ケータイ電話の危険性を知ってほしい

竹花 子どもたちを育していくのは、大人の責任です。なかでも、大人社会が作り出した子どもたちにとって良くない環境を正していくのはとても大切なことだと思っています。最近大きな問題になっているのは、子どもが通学途上で危ない目にあうことや、ケータイ電話の使用についてなどですが、こういう問題を大人たちが考えなければならないということで、2年前から83運動を、今年からiS(アイエス)運動を始めました。とりわけケータイ電話の問

題は国会でも取り上げられています。国が規制してこうあるべきだと打ち出すことも大事ですが、ケータイ電話そのものは、危険もあるけれど、有用な道具でもあるので、かなり複雑な問題だと思います

小田 その通りですね。

竹花 危険だから持たせないという方法もあるんだけれど、フィルタリングをつけるとか、家族の中で使い方を相談してきちんと約束をして持たせるというやり方もある。この問題は、親と子、学校と子ども、地域と子ども、全体として取り組んでいかないといけないのではないかと思っています。私どものようなボランティア団体がやることは、お父さん・お母さんたちや地域の方々に「ケータイ電話のことをもっと知ろうよ！もっと良く話そうよ！」と伝えて、ケータイ電話の危険性を知っていただいくことではないかと思っています。

お互いに連携して、子どもたちに良い環境を

小田 JCも「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守る研究会」に出ていましたので、いただいた事例や報告を見ながら、この問題に取り組んで行こうということで進めています。インターネットに係わることだけではないのですが、JCでは、今年、「ローカルコミュニティー復活」ということで、全国各地のJCが、その地域の特性を生かした運動をしています。ポイントは「その地域にしかないもの」と「匿名性の排除」ということです。インターネットは匿名の最たるものですが、匿名の人たちが集まる社会は、コミュニティーとして崩壊すると私は考えています。匿名性の高い、無責任なものが横行してないような社会を作っていくことが必要なのではないかでしょうか。

竹花 なるほど。

小田 国による規制は絶対にすべきだと思います。アメリカでは、映画でも、13歳以下は保護者と一緒にとなっているし、ポルノ雑誌はカバーをかけられ、完全に普通の雑誌と分けられて、未成年は買えないようになっています。ただし、規制だけに頼ってしまうと、自分で考えるのを放棄してしまう傾向があるように思うので、我々のような民間団体が、自主的に自己防衛をしていく必要もあると思います。

竹花 それは、とても大切なことです。匿名社会とおっしゃいましたが、インターネット社会の進展は、大人にとっても、子どもにとっても、壮大な別の世界を創り出しました。そこはバーチャルで匿名の社会なんだけれども、しかし、そこで語られていることが、そこを利用している人にとっては、いつのまにかリアルなことと間違えてしまう。そういう状態に置かれて、その中で子どもたちは育っている。大人には分かるが、子どもたちには十分理解できない。匿名社会なるがゆえに無秩序なバーチャルの世界になじんでもしまうと、これが普通の社会だと思ってしまわないかという不安がありますね。

小田 そうですね。

竹花 政府や警察にお願いすれば上手くやっていける時代は終わった。社会を構成している個人や団体が、自分たちの問題として考えないといい社会にならないと考えています。我々のような団体に、そんな大それたことが出来るとは思っていませんが、危機感をもって、人任せにしないで、子どもたちのために自分たちで出来ることをしようと思いますので、いろんな意味で連携を強めさせていただければありがたいと思います。会員の皆さんに、おやじの会のしていることをお伝えいただき、「OBの人は皆おやじ日本に入ろう。」と言っていただくとありがたい。(笑い) ポスター やカンバッヂやシールなどのグッズも作っていますので、ぜひ、ご利用いただければと思います。今日はありがとうございました。

小田 JCも子どもたちに良い環境を提供していきたいという共通の思いがあります。良識ある人たちと連携して、良識ある人たちを増やしていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。この運動を全国に発信していくたいと思います。



固い握手を交わす小田会頭と竹花会長

第5回おやじ日本全国大会 さいたま市共済会館で開催

平成20年6月1日



大勢の参加者の前で挨拶する竹花会長

第5回を迎えたおやじ日本全国大会。今年は、JR浦和駅近くのさいたま市共済会館で開催しました。会場には埼玉県はもちろん、遠く広島や豊橋から集まった400名近くのおやじたちが参集し、講演に熱心に耳を傾け、討論に加わって、全国大会を盛り上げました。

活動の輪を広げよう！

はじめに、おやじ日本竹花豊会長が挨拶にたち、埼玉県、さいたま市、それぞれの教育委員会、そして、地元のPTAの方々はじめ、開催にあたりご支援いただいた多くの方々にお礼の言葉を述べました。そして、埼玉での新しい出会いに感謝し、今後、ますます活動の翼を広げていきたいと、今年度の抱負を語りました。

「しゅはり」とは？ 基調講演で落合弘氏が語る

基調講演は、浦和レッズハートフルクラブキャプテンの落合弘氏の講演でした。ハートフルクラブは、サッカーの普及活動にとどまらず、子どもたちの心の部分まで入り込んだ活動を目指しています。地域の幼稚園や保育園・小中学校だけでなく、今春はUAE、アラブ首長国連邦まで子どもたちの指導に出かけて來たそうです。そのハートフルクラブのスローガンである「しゅはり」について、落合氏は熱く語り、参加者的心を捉えました。

しゅ(守)…基 本…ベーシック
は(破)…個 性…チャレンジ
り(離)…楽しむ…バリュー



落合 弘 氏
元サッカー日本代表 1969 年
にJSL得点王 1978 年に日本
年間最優秀選手賞を受賞。
日本代表では主将も務めた

おやじの会を、作ろう！

第1部後半は全員参加型パネルディスカッション。テーマは「おやじの会」の現状やこれからどうあるべきかについてです。コーディネーターはおやじ神奈川事務局長の篠原豊氏、アドバイザーは、橋本英樹氏（広島市おやじの会連絡会会長）、渡辺嘉郎氏（豊橋おやじネットワーク事務局長）、伊地知伸久氏（埼玉県PTA連合会会長）、落合弘氏（浦和ハートフルクラブキャプテン）の4氏。<ネットワークの重要性><会員が増えない悩み><いろいろなイベントのアイディア>について会場も交え、活発な議論が交わされました。又おやじの会では<飲み会（ノミニケーション）>が欠かせない交流手段となっていて、<飲ませちゃってから入会を促す>作戦

や、<仕事がらみで否応なく勧誘する>という秘策が紹介されたり、<発想を転換し、お父さん全員が会員だと思うことにした> あるいは<無理をして会員を集めなくても良い>と言う意見も出ました。大切なのは<何人でもいいから集まっておやじの会を作ること>。<楽しんで続けていれば、自ずと輪が広がる>ということのようです。



会場からのいろいろな発言にアドバイザーの皆さんも真剣な表情

ケータイは危険？ 持たせるとしたら、どうすればいい？

第2部は「ケータイ問題」についてのディスカッションです。パネリストは、新井千晶氏(NPO 法人電子メディアと知識の箱デジコム理事長)、宮下靖尚氏(さいたま市立大戸小学校おやじの会)、伊沢公晴氏(おやじ日本 iS 運動担当委員)、落合弘氏(浦和レッズハートフルクラブ)



それぞれの立場でケータイ問題を語るコーディネーターとパネリストの皆さん

の4氏で、コーディネーターは竹花豊おやじ日本会長が務めました。ケータイを持たせているおやじも、持たせてないおやじも、共に悩むケータイ問題。<持たせるか持たせないか>は非常に悩ましい問題だけれども、持たせるとてもフィルタリングをつける。小中学生のうちはこれが当然だというが、全体として今の流れではないか>とする竹花氏の言葉に、新井氏は<親子が話し合うことが何よりも解決につながる。また親が相談し合えるネットワークをもつことで、刻一刻と変わっている現状に対応できる>と応じました。会場では、デジコムが作成した大人向け啓発ムービービデオ(青少年を巡るネット社会の危険事例を紹介してその対策を考えるためのツール。漫才のような掛け合いで、問題となる事例を分かりやすく説明している)が紹介され、参加者の興味を誘いました。

会場からも、たくさんの意見

各団体の取り組みや、子どもへの思いなど、おやじたちの発言が相次ぎました。

子どもたちは簡単にケータイを手に出来る。行政の規制だけでなく、大人が、自分でも知ることが大事



人がみんなで考え、そのことを子どもに伝えいくことが必要

子ども用のケータイは、通話するだけ、居場所が分かるだけのツールでいい

正しいケータイの使い方のプリントを作成し、親子の話し合いのきっかけになるように配布した。

今回の会場となったさいたま市共済会館は舞台がなく、参加者もパネラーも同じフロア。形の上でも、内容的にも、まさに全員参加型パネルディスカッションとなり、参加者からは、「一体感があった」「発言しやすかった！」と大好評でした。でも、少しでも目立つようと、背の高い椅子に座られたパネラーの方々からは、「安定感が悪く、落ち着かなかった」との声も… 会場作りにも、いろいろと試行錯誤しているおやじ日本です。

埼玉にもおやじの輪

大会には上田清司埼玉県知事も駆けつけ、地域のつながりの重要性を語り、本気で取り組むと世の中が変わると挨拶しました。埼玉県では、この大会を機に、おやじの会のネットワーク化についての話し合いが持たれ、大会終了後の6月8日(日)、大宮中部公民館に15名が集合しておやじ埼玉が正式にスタートしました。今後の活動に期待したいと思います。がんばれ！おやじ埼玉

大会の詳しい内容は、おやじ日本事務局情報発信ブログ
<http://blog.goo.ne.jp/oyaji-deban>
に掲載してありますので、ぜひご覧下さい

最後に、みんなで、大会宣言！



iS運動・アクションプラン推進中！



ポスター、カンバッチ、シールを製作しました。

iS運動のシンボルとしてご利用下さい。

◆ポスターは「おやじ日本」ホームページから自由にダウンロードできます。

◇カンバッチは、一個100円で販売します。

◆シールは、10枚1組で100円です。



※購入希望の方は、おやじ日本事務局へご連絡下さい

各地のおやじの会をはじめ、子どもの問題に関わる多くの団体に、
「一緒にやりましょう！」と呼びかけています

竹花会長は(社)日本PTA全国協議会会長、日本青年会議所会頭と対談し、子どもたちのために、協力体制をとって、運動を全国へ発信することを確認し合いました。

今後、(社)全国少年警察ボランティア協会、(社)全国少年補導員協会、ネット社会と子どもたち協議会、NPO法人日本ガーディアン・エンジェルス、(財)マルチメディア振興センター等、いろいろな団体への働きかけを行っていきます。

ケータイ・インターネット問題のフォーラムを開催、支援します。

ケータイ・インターネット問題の情報を提供します。

「バーチャル社会がもたらす弊害から子どもを守るために」報告書他、
ケータイ・インターネット関係の資料が提供可能です。

又、啓発ビデオムービーも準備中です。学習会等の資料としてご利用下さい。
問い合わせはおやじ日本事務局へ。



シールを貼ったケータイ

ケータイ・インターネット問題の専門家を紹介・派遣します。

「おやじ日本」、関係団体、NPO等からの語り部を紹介・派遣します。

(株)電通CSR室社会貢献部のご協力に、心からの感謝！



開会行事の中で、感謝状を贈呈

iS運動のイメージデザインはじめ、ポスター、シール、カンバッチなどの関連グッズは、株式会社電通・CSR室社会貢献部の多大なご協力を得て、製作することが出来たものです。これに感謝して、第5回全国大会の席上、竹花会長から、電通の杉本晶様、宇和川泰道様、中村優子様に、感謝状と記念品を贈呈させていただきました。こういった企業のお力添えが、活動を推進する大きな力になっています。

あんしんもケータイさせよう

インターネット安全運動

iS運動 internet Safety

子どもたちとともに未来を創る～～そんな大人を目指して

おやじ日本会長 竹花豊



第5回全国大会の成功を皆様とともに喜び合いたいと思います。何よりも大会準備の間に、埼玉のおやじの面々と2回の話し合いを持ち、同じ志を持った方々とここ埼玉でも出会えたことは嬉しいことでした。まして、大会1週間後に15名のかたが集まり、埼玉おやじネットワークが作られたのは望外の出来事でした。皆で苦労したけれども、やってよかったという感慨がありました。関係の皆様に改めて感謝申し上げます。

こんなうれしいことがあると、また来年もやってみよう、もっとたくさんの方々と出会いを作ろうと背伸びをしたくなります。そのためにも、おやじ日本をNPO法人にし、財政面でも体制の問題でももっと充実させる必要があります。多くの方々のアドバイスやご協力がいただければ幸いに存じます。

ところで、来年に向けて私が暖めつつあるおやじ日本の新しいメッセージがあります。それは、表題にある「子どもたちとともに未来を創る」というコンセプトです。環境問題など地球の将来には困難な問題があります。これを嘆いていいで、楽観的に、大人も子どもたちとともに動きませんか。それが子どもたちの親の思いを伝えるよい機会になると思うのです。もっと考えてみたいと思います。皆さんのご意見をいただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

来年は東京で、全国大会開催

平成21年6月7日(日)午後1時～4時半 CCレモンホール(渋谷区)

おやじ日本は、現在、特定非営利活動法人(NPO法人)設立に向けて準備を進めていますが、来年度の第6回全国大会は、特定非営利法人設立記念大会とし、<おやじ～親として～>をテーマに開催する予定です。私たちの思いを子どもたちに伝えるために、全国のおやじの会の皆様をはじめ、学校、地域、PTA関係者、又、行政機関や企業にも呼びかけ、活動の輪が更に広がっていくことを目指します。おやじとして、大人として、何が出来るのかを考え、全国に発信する大会にするために、今後、内容等についての討議を重ねていきますので、ご支援とご協力をお願いします。

～ 広がれ！おやじネットワーク～ (全国のおやじの会・活動紹介)

今治おやじネットワークは2007年5月、約150名が参加し発足しました。今治おやじネットワーク設立大会には、遠路今治まで、おやじ日本の竹花会長に来ていただき、ご講演をして頂きました。日常は約30名ほどで活動をしています。今後は広域的に活動を広げていきたいと考えています。来年2009年2月に、今治市のPTA連絡会主催で子どもの安全・安心をテーマに研修会を開催する予定で、おやじの会も協力し準備中です。おやじ日本にもご虚力をお願いします。

(愛媛県今治市今治おやじネットワーク 北貞丈さんからのお便り)



～おやじ日本は、今治おやじネットワークの発展にエールを送ります！～

運営委員 北貞丈氏

運営会議報告（2008年3月～6月）

3月 15日	全国大会 埼玉おやじの会 iS運動 放課後対策研究事業 法人化定款 中間決算報告
4月 13日	全国大会 埼玉おやじの会 iS運動 放課後対策研究事業 法人化協議
5月 4日	全国大会 埼玉おやじの会 iS運動 放課後対策研究事業 法人化協議 広島フォーラム 次年度に向けて
6月 1日	H20年度役員・運営委員選出
6月 8日	全国大会報告 H20年度事業計画 H20年度予算 iS運動 法人化日程



6月の運営会議

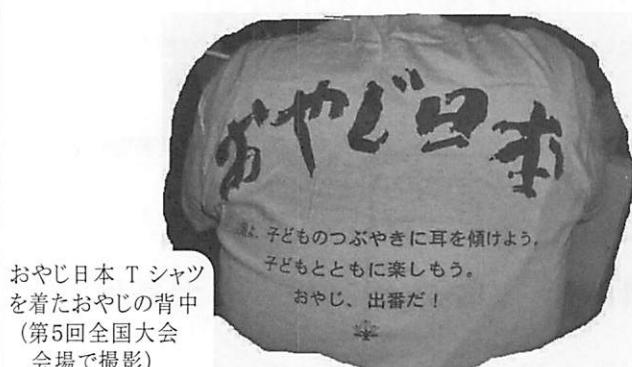
今後の予定

7月 26日（土）午後5時～（事務所） 運営会議

9月 10日（水）午後7時～（事務所） NPO設立総会 運営会議

10月 26日（日）午前10時～（事務所） 運営会議

各地のおやじの会との連携（2008年3月～6月）



おやじ日本では、役員が各地のイベントに参加し、全国の「おやじの会」と情報交換や交流を行っています。

- ・おやじ東京大会 3月23日（日）
- ・おやじ埼玉意見交換会 5月2日（金）
- ・おやじ埼玉ネットワーク発足総会 6月8日（日）に参加（今後の予定）
- ・神奈川磯子区フォーラム 8月30日（土）
- ・広島市おやじの会主催フォーラム 8月30日（土）
- ・広島市ロータリー主催フォーラム 11月23日（日）

おやじ日本の活動に、ご支援をお願いします！

本会の活動を推進していくために、個人、企業・団体の皆様に、賛助のお願いをしています。賛助金は、個人については1口千円、企業・団体については1口1万円で、何口でも申し受けさせていただいております。また、施設・会場、物品などの提供もお願いしています。ご協力いただける場合には、「おやじ日本」事務局（下記）へ、FAX、郵便またはメールでご連絡ください。賛助金は、銀行振り込み、又は、郵便振替でお受けしています。

振込み先

銀行名 みずほ銀行新橋中央支店

口座番号：普通 2059554 口座名：おやじ日本

郵便振替 00150-9-631618 口座名：おやじ日本

【発行及び連絡先】 おやじ日本

おやじ日本ホームページ <http://oyaji-nippon.org/>

おやじ日本事務局情報発信ブログ <http://blog.goo.ne.jp/oyaji-deban>

事務所住所 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町1-1 渋谷区役所前駐車場地下一階 TEL/FAX (03)3462-7113

事務局 小山 洋子 desk@oyaji-nippon.org 編集担当 寺田真理子

ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます。